

## 慧日寺

807  
平安初期には法相宗の教えを学んだ徳一が慧日寺を開基し、会津仏教文化の発祥の地として栄えました。永正8年に修復された絹本着色恵日寺絵図や発掘された礎石群から壮大な伽藍を誇る規模であることが確認されましたが、衆徒頭の乗丹坊が平氏方につき、木曾義仲との戦いに破れたことから会津四郡に及んだ勢力は衰退していきます。



徳一像



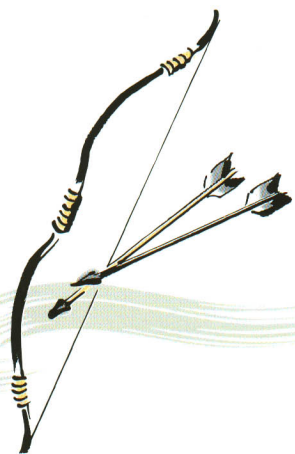
慧日寺の想像図

さらに、会津領主の芦名氏が天正17年に磨上原の合戦において、伊達政宗に敗れ、寺に火を放たれた慧日寺は、のちの幾度の火災により伽藍の殆どを焼失しました。

門前町として早くから開けていた大寺周辺は、江戸時代に入ると二本松街道沿いの宿駅となり、人の往来も賑やかになります。幕末の戊辰戦争ではこの街道も西軍の押し寄せるところとなりましたが、九軒が兵火で失われたのみでした。

## 戦

1598



## 火山

1888



磐梯山噴火のスケッチ

## 磐梯村の頃

1889  
元号が明治へと改まり、明治21年に磐梯山が噴火、明治22年に磐梯・更科・大谷・赤枝の4村が合併し「磐梯村」が誕生しました。この後岩越鉄道開通、発電所建設や非金属精錬工場の誘致などにより、急速に農業の村から工業開発の新しい村へと発展していきます。そして2つの大戦を経て工業の隆盛と衰退、敗戦の痛手から復興する磐梯村は昭和35年から「町」へ移行しました。



磐梯村の頃の人々



高田商会大寺工場